

令和7年度 算数 授業改善推進プラン

大田区学習効果測定 結果の分析

4年生…校内平均正答率は目標値より上回り、全国平均と同程度であった。区平均よりは下回った。基礎・活用において目標値・全国平均を上回り、区平均は下回った。問題内容別に見ると、「わり算」「□を使った式」について目標値を下回っている。「大きい数と小数・分数」「時ごとと時間」については目標値を上回っている。それ以外の内容については、目標値と同程度である。

5年生…校内平均正答率は、目標値・区平均・全国平均を下回った。基礎において目標値・区平均・全国平均を下回る。活用においては、目標値と同程度であり、区平均・全国平均を下回る。問題内容別に見ると、「小数」「分数」「簡単な場合についての割合」「面積」「折れ線グラフと表」については目標値に達しているが、それ以外の内容については、目標値に達していない。

6年生…校内平均正答率が目標値・区平均・全国平均を下回った。基礎・活用においても目標値・区平均・全国平均を下回る。問題内容別に見ると、「整数のなかま分け」「小数の計算」「分数の計算」「面積」「割合」「円グラフや帯グラフ・平均」について目標値を下回っている。それ以外の内容についても、目標値と同程度か上回っていた。また、記述問題においては、目標値を大きく下回っている。

【観点別正答率の分析】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
5、6年生の正答率は目標値を下回っている。4年生は、「わり算」の問題で正答率が低かった。また、5、6年生は、小数や分数の計算問題において正答率が目標値を下回り、課題が見られた。	各学年とも正答率は目標値を下回っている。4年生は「□を使った問題」の正答率が低く課題が見られた。また、5、6年生は、図形や変化と関係の問題における正答率が低く課題が見られた。	各学年とも、特に記述問題において問題の意味をとらえきれず、誤答や無回答が多く、課題が見られた。

課題〈今回の調査結果から〉

○知識・技能に対しては、基礎・基本をきちんと定着していけるように、授業の始めに復習を取り入れていく。また、東京ベーシックドリル等を活用し、既習の反復練習を繰り返して学習の定着状況を把握していく。

○見通しをもって問題解決を図る習慣を身に着けていく。そのために、既習を活かしながら問題を解くことをこどもたちに習慣化させていく。

○自分の考えをノートに書くことや他者の発表を聞いて再考することなどの表現活動を通して、こどもたちの「できた」「わかった」の気持ちを高められるよう、日常の授業の中で価値付けしていく。